長期に及ぶタバコ煙曝露が歯周組織構成細胞に及ぼす影響

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1133

2-T-11

長期に及ぶタバコ煙曝露が歯周組織構成細胞に及ぼす影響

柳田 学[1)]

喫煙は歯周病の発症・進行に関わる環境的危険因子です。臨床研究報告により喫煙者の歯周病病態増悪、治癒遅延、再生療法の効果減少等が明らかになってされています。また、*in vitro* 研究においてタバコ煙成分や、タバコ煙の主要成分であるニコチンは歯周組織構成細胞の細胞機能を変調させることが報告されています。しかしながら、それらの報告のほとんどが実験試料である細胞に対して数時間～数日間といった短期間の刺激（急性刺激）に対する細胞機能の検討です。喫煙習慣は長期間に及ぶため、慢性的なタバコ煙成分の曝露が歯周組織構成細胞にどのような影響を及ぼすかを検討する必要があると思われます。本研究では 4 日間（短期間）、あるいは 25 日間（長期間）において、喫煙者体内における生理学的な濃度のタバコ煙成分の曝露が、歯肉線維芽細胞の細胞機能に及ぼす影響について比較検討しました。長期間のタバコ煙曝露が歯肉線維芽細胞の細胞老化を促進し、老化関連遺伝子の発現を亢進する結果をお示しします。

1） 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科